

小山市立博物館

博物館だより

2009 48
3.15

くるまや
車屋美術館・間々田市民交流センター 開館 市制55周年 記念

『特別展 博物館と美術館のあるまち「乙女」』

小山市立博物館は開館して25年、四半世紀が過ぎようとしています。

そんな中、平成21年4月に同じ間々田地区に、二つの新しい施設が誕生します。

小山市間々田市民交流センターと小山市立車屋美術館です。特に、美術館は博物館と同じ「乙女」の地に開館します。

そこで、今回は、博物館と美術館のあるまち「乙女」をテーマにした展示を企画しました。

「乙女」はどんなところなのか、発掘調査でみつかったものや昔の記録類、民具など、「乙女」についてのさまざまな資料をご紹介します。

■展示内容

～集落と窯跡のあったころ～

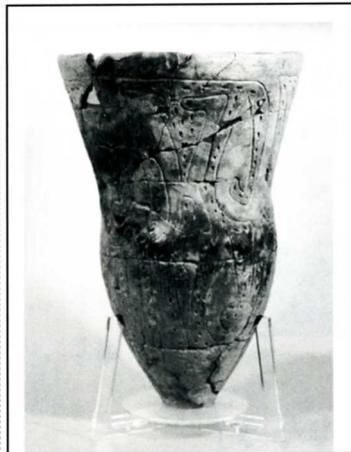
乙女北浦遺跡・亀田遺跡・町谷遺跡
乙女不動原瓦窯跡

～河岸と人車鉄道のあったころ～

乙女河岸
乙女人車鉄道

～博物館と美術館のあるまちへ～

小山市間々田市民交流センター
小山市立博物館・小山市立車屋美術館



深鉢 町谷遺跡

■主な展示資料



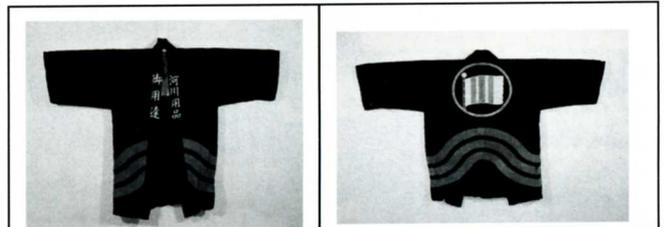
軒丸瓦と軒平瓦
乙女不動原瓦窯跡



乙女河岸 模型



乙女川岸運賃覚 (小山市文書館蔵)



シルシバンテン

第53回企画展

おやまひょうじょう よろいむしゅ

「小山評定と鎧武者たち ～伊澤コレクションとともに～」

いざわ

平成20年10月5日(日)～11月30日(日)

今回の企画展では、徳川家康が天下を取るための重要な会議となった「小山評定」を取り上げ、その場に参加した武将や、その後の関ヶ原の戦いに参戦した足軽たちの甲冑・陣羽織など、伊澤昭二氏コレクションの中から選定した55点の資料を展示しました。また展示をとおして、小山評定の歴史的意義や、戦に備えた武具の役割・機能美などを来館者の皆様に理解していただきました。なお、期間中に実施しました甲冑の着付体験には、多くの参加者があり、大変好評でした。



甲冑着装体験

講演会 11月3日(月) 伊澤昭二氏「武者たちの装い～戦からみた武具の変遷」

甲冑着装体験「鎧武者に変身」 10月5日・11月16日(日)

第9回収蔵展 「女性のくらしと民具」

平成20年12月13日(土)～平成21年2月8日(日)



展示風景

当館で所蔵する民俗資料の中から、特に女性のくらしに関わる資料を選び、かつての女性の一生をたどる形で紹介しました。市内で助産師をしていた方からご寄贈いただいた助産道具や、七歳になる女児が登場する市内寒川の祭礼「花桶かつぎ」の再現など来館者の方の興味を引いていました。今回は展示に対する感想を聞かせてくださる方が多く、民具を通して女性のくらしや道具にこめられた思いなどを感じていただけたのではないかと思います。

「縄文土器を作ろう」

1人、2.5kgの粘土をつかい、縄文土器を作る講座を、1月31日に開催しました。当日は、事前に申し込みをいただいた小学生から大人の方、計9名のみなさんをはじめ、一緒に来館された家族の方も一緒になって土器を作りました。友の会「土器の会」の方のアドバイスを元に、熱心に取り組んでいました。完成した作品は、乾燥させた後、博物館の窯で焼き上げました。



「江戸時代の文字を読もう！」

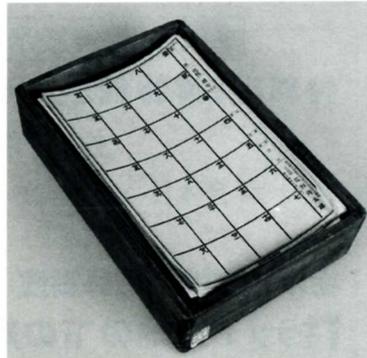


11月2日に、中学生を対象とした古文書講座を開催しました。「古文書ってなに？」という基礎から、実物を見たり、簡単なくずし字解読体験をしたりしました。この講座は学校で教わる歴史がどのような史料(証拠)に基づいて書かれているのか、少しでも興味を持ってもらおうというのがねらいです。読めなかったくずし字が自分で読めるようになると、嬉しそうな笑顔がみられました。

収蔵資料案内

常設展示室の民俗コーナーには、養蚕に関連した「種紙」

と呼ばれる木箱に入った紙が展示されています。この紙は蛾に卵を産みつけさせるための台紙で、養蚕農家はこの種紙を購入して養蚕を行っていました。紙には28の枠が印刷され、この上に金属製のガリンという枠を置き、そこに蛾を一匹ずつ入れて卵を産ませます。小山市域では明治の中頃には、こうした種紙を製造する蚕種業が盛んに行なわれており、特に絹・生井地区がその大部分を占めていました。種紙の右下に製造元である「富基館 荒初角太郎」とありますが、この人物は下生井の蚕種製造家で、富基館は角太郎が開設した養蚕教師を養成する伝習館の名称です。角太郎は自らの研究によって新蚕種である「角又」の創作にも成功し、優良種として全国に知れ渡っていたといえます。



新指定文化財紹介

本像は、確認された仏像では市内で最も古いもので、市内中島地区にある稻荷神社境内の「寿亀庵」に安置されていました。

制作年代については、平安時代後期の定朝様の風貌を備えていますが、衣紋線の表し方など意匠に簡略化が図られていることや、顔貌の表現に鎌倉時代の影響が感じられることから、12世紀末期と考えられています。左手中指に欠損が見られる他、摩耗や虫食いによる小孔がありますが、大きな損傷もなく、当初の優美な肢体をとどめています。

阿弥陀如来への信仰は、平安時代後期の浄土信仰や善光寺信仰の流布とともに受容されました。本像も小山氏や結城氏などの領主層の信仰に関わるものと推測されますが、詳細は不明です。



木造 阿弥陀如来立像(中島自治会)

博物館のお仕事 Q&A

Q 博物館の出前授業って何?

A 博物館では、館で所蔵している本物の資料を学校に持っていき、授業に役立てていただく事業を開館当時から実施してきました。現在実施されている主な出前授業は次のような内容です。

● 昆虫教室・・・3年生の理科で学習する「昆虫の育ち方、体のつくり」に対応させ、館で所蔵する昆虫標本35箱を使用して解説を行います。



● 郷土学習・・・4年生の郷土を知る学習に役立つ民俗資料を使用して学芸員が解説をします。また、複製資料を使用し石臼を挽く体験なども実施しています。



● 天文教室・・・小、中学生を対象に理科で学習する天文の内容に合わせて望遠鏡で天体観測を行ったり、簡易プラネタリウムで星座や星の話をしたりします。



コラム 博物館職員雑記帳

「御」との出会い

古文書のくずし字を初めて習うとき、第一の壁は「御」です。

ふざけると、と思うのが普通です。実際は「御手洗」のように必ず名詞の前につくので、慣れれば何ということもないのですが、理論的に説明するのは難しい字です。

私は昨年四月、新採用職員として博物館に配属されました。一年間、初めて古文書の「御」と出会った時の戸惑いと不安、混乱の追体験でした。気が付けば一年が経ち、「御」に慣れるように、仕事を理解し始めました。しかし「御」が読めたからといって古文書が読めたことにはなりません。「くずし字辞典」のような「学芸員辞典」が売っていたら絶対買うのですが・・・。(学芸員 尾上仁美)



(御)

平成21年度展示予定

特別展『博物館と美術館の

あるまち「乙女」』

4月4日(土)～6月7日(日)

栃木県立博物館移動展

『キラッ! 大地の下の輝く世界』

7月18日(土)～8月23日(日)

第54回企画展

「甘味を贈る

～菓子の贈答文化～

10月10日(土)～12月6日(日)



「季節の一枚～オモイガワザクラ」

博物館の周りには、コヒガンザクラ、ソメイヨシノ、オモイガワザクラの3種類の桜が見られます。一番先に咲くのが、コヒガンザクラ、次にソメイヨシノ、最後にオモイガワザクラです。3月下旬から4月中旬ぐらいまで目を楽しませてくれます。

■ 寄贈者芳名 (平成20年7月～12月)

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

- ・橋本芳二郎(小山市) 万石 1点
- ・塚原良男(小山市) 高椅神社楼門模型 1点
- ・川村ウメノ(小山市) お手玉 6個
- ・山中隆寛(小山市) 昆虫標本 1式
- ・中田哲夫(小山市) 盃洗1点、茶釜1点
レコード板1式、レコード入れ1点
- ・山中みね(小山市) 助産師道具 1式
- ・豊田敬一(小山市) 三尺 2本
- ・佐藤由紀子(小山市) 着物 1枚
- ・高木富江(小山市) 着物1枚、帯2本、三尺1本



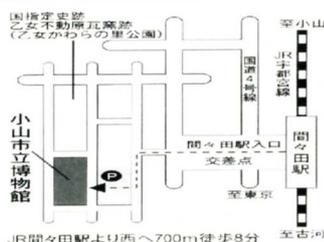
助産師道具
山中みね氏寄贈

★ 平成21年度前期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しております。昼間は、太陽の観測を行い、夜は、季節ごとに見られる星座など紹介しながら星の観測をします。今年、環があることで有名な土星を8月くらいまで観測することができます。また、7月22日は皆既日食があります。残念ながらこの辺りでは皆既となりませんが、7割程度かくれます。この日博物館でも観測を行う予定となっています。



ほっしー★OYAMA号



● 博物館友の会会員募集 ●

博物館友の会は、小山市立博物館を通じて、郷土の歴史や文化をたどり、会員相互の教養や友好を図るための会です。活動期間は、4月1日から1年間で、会費は年額2000円です。

5つの学習部会(土器の会・拓本研究會・篆刻をつくる会・郷土史部会・古文書を読む会)があり、生涯学習に楽しく取り組んでいます。

発行年月日 平成21年3月15日
 発行 小山市立博物館
 〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7
 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)
 電話(0285)45-5331・Fax(0285)45-5247
 印刷 (株)ダイサン印刷所